

天に上げられた聖母マリアの取次を！

イズコ神父

聖母の被昇天！五世紀から、キリスト教の東と西の教会が聖母マリアの被昇天という祭りを祝ってきました。キリストの復活を信じる信者達は、キリストと共にその母が天国におられないと言うことを考えることが出来ませんでした。“身体の復活”を信じている私たちですが、それは聖母マリアの場合にはすでに実現されたのではないのでしょうか。主イエスキリストの復活は、全てのキリスト者の信仰の中心ですが、その勝利に与る方々の中にはキリストの母が第一に入るはずではないのでしょうか。こうして、昔からの信者の信仰に基づいて、1950年の11月の1日に教皇ピオXII世は、”聖母マリアが身体と魂で天国に上げられた”と言う教理を宣言されました。

毎年、日本の8月の15日にあたって、天国に上げられるマリア様の姿を仰ぎ見るように招かれています。ゆっくりおめでとうと言いながら、楽しく仰ぎ見ましょう。色々な宗教には、天から下って人を助ける女神の姿が見えます。聖母マリアは女神ではありません。人間に過ぎません。天から下る方ではなく、天に昇られる方です。私たちの内の一人の人間です。彼女の言葉で言えば、”身分の低い主のはしため”です（ルカ1章18節）。近づきやすい聖母マリア、私たちのために取りなして下さる聖母マリア。私にとって、”聖母の被昇天”の祭りはたくさんの喜ばしいことを思い出させてくれます。ふるさとの村の教会の保護者はちょうど”被昇天の聖母”です。村民は約400人ほどの小さな村ですが、素晴らしい教会が500年前から建っています。その教会の彫刻の中心は聖母の被昇天の像です。たくさんの弟子達に囲まれて、冠をかぶられているマリア様の美しい姿が見えます。（りっぱな写真を持っていますからホールに貼っておきます。よかったら、見て下さい。今年は休暇でふるさに帰りますから、ちょうどその日その写真の教会でミサを捧げることとなります。）

ところで、私たちキリスト者はどんな心を持って、どんな希望を持って聖母マリアの祝日を祝ったらいいのでしょうか。御存知のように、教皇フランシスコは2013年の11月24日に“福音の喜び”と言う勸告を発表されました。長いですがとても大事な手紙です。その手紙の終わりに教皇フランシスコは、聖母マリアに目を向けて、色々な教えと共に、次のすすめという言葉を書かれました。意味深い言葉ですからゆっくり読んで下さい。

「教会の福音宣教の活動には、マリアという生き方があります。というのは、マリアへと目を向けるたびに、優しさと愛情の革命的な力をあらためて信じるようになるからです。マリアの内に私たちは、謙虚さと優しさは、弱い者の徳ではなく、強い者のそれであることを見るのです。強い者は、自分の重要さを実感するために他者を虐げたりはしません。マリアを見つめて私たちが気づくことは、（権力ある者をその座から引き下ろし）、（富める者を空腹のまま追い返される。）と神を賛美したそのかたこそ、私たちの正義の探求に家庭的な温

もりを注いで下さる方だということです。マリアはまた、注意深く（これらのことを心にとめて思い巡らしていたルカ 2 章 19 節）方でもあります。マリアは神の霊の足跡を、大きな出来事の中にも些細なことと見える出来事の中にも見いだせるかたです。マリアは、世においても、歴史においても、一人ひとりの、そしてすべての人の日常生活においても、神の神秘を観想されます。マリアは、祈りかつ働くナザレの女性であり、すぐに動かれる聖母、人に手を貸すため自分の村から（急いで）ルカ 1 章 39 節、出かけるかたです。正義と優しさの力、観想と他者に向けて歩む力、これこそがマリアを、福音宣教する教会の模範とするのです。マリアに願います。母としての祈りを通して、私たちを助けて下さい。教会が多くの人の家となり、全ての民の母となって、新しい世界を誕生させることができますように。」